女優いしだあゆみさんの死因
「甲状腺機能低下症」の初期サインと原因

歌手で女優のいしだあゆみさんが 3 月、甲状腺機能低下症のため、76 歳で亡くなりました。

甲状腺機能低下症は適正に薬を服用すればほとんどの場合、回復します。なぜ、亡くなるまで重症化したのでしょうか。甲状腺機能低下症は何が原因で起き、どんなことに気をつければいいのでしょうか。

首の、のどぼとけのすぐ下に甲状腺があり、甲状腺ホルモンを分泌しています。このホルモンは体の新陳代謝を調整しています。甲状腺ホルモンが少なく機能が落ちた状態が甲状腺機能低下症で、全身の細胞や臓器の代謝や機能が落ちます。

甲状腺機能が落ちても軽度の場合（潜在性甲状腺機能低下症）、症状は出ません。機能低下が強くなり長く続くと、気力がわかず何事にも疲労感を覚え、体がむくんだり、便秘を訴えたりするなどの症状がでます。代謝が落ちるので冷え性で寒がりになります。

皮膚は乾燥し、ざらざらで、やや黄みを帯びます。脱毛も起き、頭髪はまばらに、眉も外側が薄くなります。話をすると、ゆっくりで声は低く、かれ声になります。ひどくなると記憶も障害され、抑鬱状態になります。

甲状腺機能低下症の日本人がどれぐらいいるか（有病率）の正確なデータはありません。欧米の報告では無症状の人を含めると全人口の 5%程度で、症状のある人はその 10 分の 1 ほどと推測されます。

診断は血液検査で甲状腺刺激ホルモン（TSH）と甲状腺ホルモン（FT4）を測定します。TSH だけが高く FT4 が正常で症状がなければ潜在性甲状腺機能低下症です。TSH が高く FT4 がかなり低下していると甲状腺機能低下症と診断されます。

甲状腺機能低下症を起こす最も多い原因は慢性甲状腺炎（橋本病）です。橋本病では抗甲状腺抗体ができ、自分の免疫が自分の甲状腺を攻撃するために起こる自己免疫疾患です。発症には遺伝と環境の両方が関係します。

女性が男性の 3～7 倍多く、30～60 歳代の発症が多くなっています。成人女性を血液検査で調べると、10～20%の人が、症状はないものの、抗甲状腺抗体が陽性です。このうち 1 割程度が長期的に甲状腺機能低下症になるといわれています。

■内服薬で回復

甲状腺機能低下症の治療は合成甲状腺ホルモン製剤（レボチロキシン）の内服です。

この薬は副作用もほとんどない安定した薬で、血中半減期が 7 日ほどあり、1 日 1 回の内服で十分です。吸収が食事や他の薬に影響されるため空腹時の内服が推奨されます。

甲状腺機能低下症を気づかずに放置すると、重度の甲状腺機能低下症に進むことがあります。重度の甲状腺機能低下症が長期に治療されない場合や、そこに肺炎などの何らかの誘因が加わると、粘液水腫性昏睡を引き起こすことがあります。

粘液水腫性昏睡では全身の代謝が落ち、低体温となり意識障害を起こします。低換気や血圧低下など呼吸不全や循環不全にも陥ります。ただちに治療しないと命にかかわります。

粘液水腫性昏睡は 100 万人に年 1 人程度とまれですが、一度発症すると死亡率は 30%と予後は厳しい状況です。

中年女性は 10 人に 1 人が潜在性甲状腺機能低下症と見積もられます。人間ドックなどの際に甲状腺機能をチェックすることを勧めます。